

社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会

平成 28 年度事業報告書

平成 28 年度 事業報告

総括事項

社会福祉法等の一部を改正する法律が平成 28 年 3 月 31 日に成立し、同日公布され 4 月 1 日より一部施行となりました。法の改正の主な柱は社会福祉法人制度の改革です。「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」「地域における公益的な取り組みの実施」「行政の関与の在り方」であり、これらを担保するため、理事会組織や、評議員会組織の在り方が法律によって義務付けられました。

本法人も、平成 28 年の 12 月に臨時の理事会・評議員会を開催し定款をはじめその他の規則改正を行い、新たな法改正に準拠するように整備しました。

また、平成 27 年度の厳しい決算の結果を受けて、人事配置の見直しや、その他諸経費の削減に努めるとともに利用者増のためのあらゆる取組を図ることにより、平成 28 年度は一部の事業を除いて、全体的に黒字決算で年度を終えることが出来ました。しかし、前年に比して、他業種の法人が障害福祉分野に参入してきており、本法人を取り巻く状況はより一段と厳しさを増しています。

1. 浅野社会復帰センター就労支援事業の設置目的の達成に向けた取り組み

(1) 利用者の増加(利用率の向上)、利便性の向上等の取り組み

①相談支援事業所及び区役所との連携

積極的に関係者協議を実施し、相談支援事業所及び区役所と連携しながら、利用者の支援を行いました。また、広報誌を通じて当センターの取り組みについて周知する機会を持ちました。

②特別支援学校、高等学校、大学への広報活動

例年、学校を卒業後、情報がないために、障害福祉サービスにつながるまでに時間がかかっている事例があげられています。潜在的に障害福祉サービスを必要としている方への情報提供を行うため、平成 28 年度より特別支援学校・高等学校・大学等の学生支援室や就職課へ、事業所のパンフレットや広報誌を定期的に持参しました。定期的に訪問することで事業所内の訓練状況を周知する機会を持つことができたとともに、学校より問合せを受ける等、関係性が深まりました。

③精神科病院等との交流

精神科病院・クリニック等の関係機関との連携を図り、積極的に見学者を受け入れ、体験利用の機会を提供しています。また、浅野社会復帰センターの利用者とともに精神科病院に出向き、現在精神科デイケアに通所されている方に当センターの事業内容を説明し、作業訓練体験会を実施しました。作業訓練体験会后、2 名の方が当センターへ見学に来所されました。

④開所日数の増加

連休時の課題として、生活リズムが乱れやすい、休みの日は手持無沙汰で苦痛になる

傾向がある利用者が少なくないため、利用者のニーズに合わせ、土曜日・祝日に開所しました。一定数の利用者に好評だった一方で作業以外の余暇を望む方も多く、利用人数は多くはないという現状がありました。開館時の内容については、利用者の意向を取り入れることで多くの方が通所できるよう取り組みました。

⑤定期的な利用者ミーティング

毎月1回、利用者が参加する利用者ミーティングの場を設けました。ここでは、当センターの取り組みに対する意見の吸い上げ、要望の聴取を行いました。議題は事前に掲示することで、考えをまとめやすいように配慮し、当日の意見発表が増えるように工夫しました。また、利用者ミーティングについては議事録を作成し一定期間掲示することで、当日欠席した利用者にも周知できるようにしました。

⑥アンケートの実施

当センターを利用している方を対象に年1回アンケートを実施しました。寄せられた意見については実現に向けて検討し、利用者の利便性向上に努めました。アンケートの内容を、平成29年度の事業計画に反映させました。

(2) 広報活動の取り組み

継続的な取り組みとして、ホームページの運営と毎月の広報誌の発行を行っています。平成28年度の見学者45名中、広報誌・ホームページを見て当センターを知ったという方は11名で、見学者全体の約1/4を占めました。

平成28年度特に行った取り組みとして、地域の障害者雇用拡大啓発イベントへの参加及び法人パンフレットの刷新があります。

①ホームページ

法人ホームページにて、各事業の案内、情報公開、広報誌の掲載等を行っています。

問い合わせ用に設置しているインフォメーションアドレスには、平成28年度中3件の問い合わせ・連絡がありました。内訳は、求人状況の問い合わせ1件、見学の問い合わせ2件(1件は当事者、1件は関係機関)でした。

②広報誌

広報誌を毎月約1,000部発行し、市内のみならず県内外の福祉施設・行政・病院・配布を希望する当事者に配布しています。

③パンフレット

法人パンフレットの刷新を行い、当事者や関係機関への訴求力強化に努めました。さらに、新パンフレット配布をきっかけに病院その他関係機関に対して当センターの新しい取り組みについて説明を行い、利用者増、病院・関係機関との連携強化を図りました。

④障害者雇用拡大啓発イベントへの参加

平成27年度に引き続き、障がい者の一般就労を促進するための障害者雇用拡大啓発イベントに参加し、就労移行支援機関として情報提供を行いました。結果、1名が見学、

利用に至りました。

(3) 家族支援の取り組み

平成 28 年度は全 5 回の家族教室を開催し、講座や情報交換会の提供を行うことで家族支援に取り組みました。各回の内容は以下の通りです。

第 1 回は、当センターの事業内容の報告及び 4 月から新たに施行された「障害者差別解消法」に関する勉強会と新たな取り組みとしてプログラム体験会を行いました。体験会では、スポーツ活動として行っている「カラーリング」をご家族に体験して頂きました。また、利用者にも呼びかけを行い、体験会に参加して頂きました。

第 2 回は、当センターでのプログラム紹介を行い、スポーツ活動の「ボッチャ」をご家族に体験して頂きました。また、利用者にも呼びかけを行い、体験会に参加をして頂きました。

第 3 回は、相談支援専門員による社会資源に関する勉強会を行いました。一人暮らしに役立つ社会資源として、グループホームやホームヘルパーの説明、活用事例の紹介を行いました。

第 4 回は、嘱託医による講座及びご家族との座談会を行いました。また、利用者にも参加を呼びかけ、数名の利用者が参加されました。ご家族・利用者共に活発な質問や意見が出ており、「勉強になった」との感想を頂きました。

第 5 回は、当センターの OB をお呼びして訓練や就職についての体験談を話して頂きました。訓練中や雇用前実習時、就職後までの話の他、その場面毎に「ご家族から受けた支援で良かったこと」を教えて頂きました。参加されたご家族からも活発な質問が出ていました。

また、平成 27 年度はご家族の参加が少ないという課題を受け、平成 28 年度は多くのご家族に参加して頂ける様に年度初めにアンケートを実施し、ご家族が参加しやすい時間や曜日、興味のある内容について事前に聴取し、企画を行いました。しかし、参加したご家族は、各回 3 家族から 7 家族と多くないこと、新しいご家族の参加が少ないという課題が残っています。

(4) 特徴ある取り組み・重点的な取り組み等について(一般就労への取り組み)

平成 28 年度は施設内訓練を強化するため、納品書や議事録の作成等パソコンを使った訓練や、身だしなみ・接客マナーを意識する機会として、見学者・来客者にお茶を出す訓練、利用者が主体的に自分の通所状況を把握できる仕組みとして、通所予定変更届の提出を導入しました。その他にも、これまでも継続して取り組んでいるマンション清掃に訓練要素を持たせるため、メンバーを固定して実施しました。期間を定めて取り組むことで、利用者からは訓練終了後に「達成感を得ることができた」との意見が挙がりました。また、定期的にミーティングを実施したことで、利用者間で必要な情報が共有できる仕組み

ができました。

引き続き、これまで個別支援として取り組むことが多かった企業見学や、職場体験実習をグループで取り組むことにより、これまで個別では不安が高く企業実習等に結びつきにくかった方にも就労へ向けた活動を提供することができました。

(5) 一般就労への取り組み

ハローワークや障害者職業センター、しごとサポートセンター等と定期的に会議を行って連携を図り、就職率の向上に努め、平成 28 年度は 7 名の方が一般企業に就職しました。

平成 28 年度は講座内容を就労準備講座・生活スキルアップ講座の 2 つに分け、各 12 回(合計 24 回)実施しました。生活スキルアップ講座については、全員参加のプログラムとして実施し、これまで講座を受講したことがなかった方にも講座参加のきっかけとすることができました。その他、「人前で話す練習がしたい」との利用者の意向を受け、プログラムとして「2 分間スピーチ」も実施しています。

さらに、当センターから一般就労を行った元利用者に対して OB・OG 会を組織し、定期的に集まり楽しい時間を共有することで、働くことへの英気を養い、就労定着への意欲を高めるように支援を行いました。平成 28 年度は障害者差別解消法に関する勉強会を行う等、障害福祉分野に関する情報提供を積極的に行いました。また、現在当センターを利用中の方にも OB・OG 会への参加を促し、利用者と OB・OG との情報交換の場としても活用しました。

2. 利用者満足度の向上等の取り組み

(1) 利用者の意見(要望)の把握、それらを反映する取り組み

毎月 1 回の定期利用者ミーティングの他、適宜ミーティングを行い、利用者の要望や意見を積極的に取り入れました。議題は事前に掲示を行い、利用者ミーティングに参加が難しい利用者の意見も反映できるようにしました。また利用者ミーティングについては議事録を作成し一定期間掲示することで、利用者に周知できるようにしました。

その他、引き続き施設内 2 ヶ所に「意見箱・要望用紙」を設置し匿名にて施設への意見を寄せられるように取り組みました。

平成 28 年度に意見箱に寄せられた意見は 48 件です。(昨年度 10 件程度)意見聴取の仕組みが活発に機能していると考えられます。寄せられた意見については、直近の利用者ミーティングにて職員の回答と合わせて告知し、利用者全体の意見の確認が必要なものについては議題として取り上げました。意見箱に挙げた意見で利用者ミーティングでの検討の結果運営に組み込まれたものとしては、訓練内容の適宜見直し、作業中のラジオ放送の導入(毎週水曜 1 コマのみ、自分に合った職場環境を考える一助として)、コーヒーマーカーの導入、トーク会の実施(利用者・職員との交流の場として)、当番のマニ

ュアル作成があります。

さらに、利用者の意見の確認・汲み取りのため、例年同様平成 28 年度も利用者サービス向上委員会を設置し、年 1 回の利用者アンケート調査を平成 29 年 1 月に実施しました。

同アンケートにおける「利用者の意見が行事や運営に反映されているか」という項目に対して、回答者の 93.3%が「十分、反映している」「まあまあしている」と回答しており、利用者の意見を運営に反映する仕組みが十分機能しているといえます。

(2) 苦情等への対応

「浅野社会復帰センター福祉サービス苦情解決実施要綱」に基づき対応しました。平成 28 年度は、苦情は挙げられていません。意見箱や各事業担当者に挙げた意見や要望は、その都度解決に向けて対応し、個別で対応すべきものには個別対応を、全体の意見を確認する必要があるものについては、匿名の提案として、利用者ミーティングにて検討を行いました。

(3) 利用者や家族への必要な情報の提供

①ホームページ・広報誌による不特定多数への情報発信

インターネットを活用したホームページによって情報の発信を行いました。また、施設パンフレットを各関係機関に設置した他、毎月広報誌を市内外の福祉施設、行政、病院及び配布を希望する当事者合わせて 150 ヶ所以上に発送し、利用者やご家族への情報提供に役立てました。

②利用者への情報提供

利用者へは毎日の作業前後のミーティング時における情報提供の他、毎月 1 回以上利用者ミーティングを行い、必要な情報を提供するとともに、意見の聴取を行いました。

さらに、昨年度に引き続き生活一般に関わる情報提供として、携帯電話会社の方を外部講師として招き、インターネット・SNS・スマートフォン等の危険性・安全な活用についての講座を実施しました。

インターネットやスマートフォンを媒介としたトラブルについてニュースで頻繁に取り上げられている他、利用者間のトラブルにもつながることも少なくなかったため、利用者の関心も非常に高いテーマだったといえます。

③ご家族への情報提供

ご家族に向けた情報は、主に家族教室の場を用いて発信しました。年 5 回の家族教室の中で、「当センターの事業内容」「疾病・障がいについて」「障がい者雇用について」「他の福祉サービスについて」といった情報提供を行いました。また、家族教室の対象を、「利用者のご家族」から「利用者のご家族及び OB のご家族」に拡大しました。

また、個別の要望や疑問・相談事については、ご家族と支援員との個別面談を通して

把握に努めました。

その他、緊急を要する内容については、その都度電話連絡や自宅訪問等の適切な手段を用いて対応しました。

(4) 利用者の社会参加や生きがいづくり等の取り組み

①地域行事への参加

地域行事への参加や住民との交流、障がい理解を進めることを目的として、毎月 1 回小倉駅周辺にて実施されている町内の美化運動に利用者・職員ともに毎回参加しました。地域貢献・社会奉仕に関われる活動として、利用者からは好評を得ています。

②余暇活動の企画

余暇の充実、利用者同士及び職員との交流を促進するため、バスハイクや季節行事・レクリエーションを行いました。平成 28 年度も引き続きバスハイク・暑気払いの企画時に利用者から実行委員を募って行事の運営に参加していただき、利用者の意見や要望をより反映することができました。

平成 28 年度は法人全体のイベントとしてボウリング大会を実施しました。事業所ごとの対抗戦をすることで、同じ事業所に通うメンバー同士での仲間意識が芽生え、交流が広がりました。また、所属している施設以外のサービスを知っていただく機会となりました。

③スポーツ活動の実施

心身の健康増進、利用者・職員間や他の事業所との交流を促進するため、スポーツ活動(ソフトバレー)を行いました。平成 28 年度は「運動はした方がいいと思うけれど、スポーツは気後れしてしまう」という利用者の意見を受け、ウォーキングをプログラム化したことに加え、選択制であったスポーツ活動を就労準備前のプログラムとして位置づけ、全利用者で取り組みました。利用者から「スポーツ活動は任意参加にして欲しい」との意見を受け、活動の目的・必要性(健康増進、職業準備)への理解を深めるため、講座を実施しました。

3. 経費の低減等の取り組み

(1) 経費節減の取組み、適切な再委託(安全性・経済性・効率性等)

平成 28 年度の運営に係る事業費は、利用者に対する福祉サービスの質を落とさず、光熱費を中心に経費の節減に努めました。

電気料金は、基本料金が上がりましたが、平成 27 年度に引き続きサマータイムなどにより冷暖房の管理及び電灯の消灯を徹底した結果、前年比同額となりました。平成 29 年 4 月より電気料金単価が値上がりしたため、引き続き削減を行います。またガスや水道料金は無駄な使用を減らすことで、前年比 2 万円減少となりました。

事務費については、公用車リース契約の見直しや法人按分額の見直しを行うことで賃借料削減、コピー機で 10 枚以上使用の場合は印刷機を使用することで、年間約 3 万円

の保守料削減となりました。

(2) 指定管理業務にかかる予算と実績の比較検証

指定管理者応募時に提出した収支計画書を基に、予算と実績の比較検証を行いました。平成 28 年度は指定管理者 1 年目ですが、市内には就労支援事業所が 100 ヶ所以上を超えて競合事業所が増えたことに伴い、利用者確保が困難になり、利用料収入が大きく減少しました。就労移行支援事業に関しては、年間通所目標人数 3,800 名に対し 3,174 名 (626 名減)、就労継続支援 B 型事業に関しては、年間通所目標人数 5,000 名に対し 3,111 名 (1,889 名減)となり、当初の計画予算より 11,835 千円マイナスとなりました。

費用に関しては、前年度実績に基づいた人員配置基準により、利用者数が減少しても多く職員を配置しなければならないため、人件費が過大となりました。その他、事業費の予算の中で大きく占める教養娯楽費に関しては、バスハイクを予定していたため予算計上をしていましたが、利用者の要望により行き先を数ヶ所に分け、公用車を用いた少人数バスハイクを実施したため、費用減となりました。

平成 29 年度は利用者の特性や利用者ニーズに沿ったプログラムの見直しやイベントの企画を行うための事業費を中心に、広報誌・パンフレットや法人ホームページのリニューアルなど潜在利用者に向けて必要な費用を執行し、関係機関や病院への営業活動にも力を入れ、利用者確保に向け運営を行います。

4. 平等利用、安全対策、危機管理体制について

(1) 個人情報保護のための対策等

法人職員全員が、外部講師による「個人情報保護に関する研修」を受講しました。当法人においては、倫理綱領・職員行動規範で個人情報の取り扱い、漏洩に関して厳しく規制しています。特に新任の職員に対しては、法人内での新任研修において、倫理綱領・職員行動規範における「財産・プライバシーの保護」、「守秘義務の厳守」について十分に説明を行いました。また、下記の項目について法人全職員に義務付けを行いました。

- ①個人情報の施設外持ち出しを禁止します。
- ②個人情報を記載した各種書類や個人情報の入ったパソコンUSB等の電子媒体は必ず鍵のかかるキャビネット等に保管します。
- ③その他、個人情報についての外部等からの照会に対しては自分で判断せず上司に仰ぎます。
- ④個人情報が漏洩した場合は速やかに上司の指示を仰ぎ自己のみで判断をしません。

(2) 人権尊重、身体拘束および体罰等の防止

当法人においては、倫理綱領・職員行動規範で人権の尊重、身体拘束および体罰の

防止について厳しく規制しています。

平成 24 年 10 月より施行された「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」(以下、障害者虐待防止法)を受け、法人内虐待防止委員会を設置・開催しました。設置に伴い、虐待防止委員会の要綱や法人内の虐待の分類、虐待通報書の書式作成を行いました。虐待防止委員会開催については年 3 回以上とし、また虐待が起こった事実を確認次第、適宜開催し対応します。

(3) 日常の事故防止や安全対策等の取り組み ※衛生管理・感染症対策等を含む

事故防止や安全対策については、危機管理委員会が中心となり、ヒヤリハット報告書を活用し、ヒヤリハット意見箱を設置しています。

また、衛生管理・感染症対策としては、衛生管理委員会が中心となり、季節性ウイルスの流行時期に全利用者に症状や予防法、対処法を掲載したチラシを配布し、感染症予防に努めました。従来業務である、月 1 度の建物点検に関しては平成 28 年度も継続して行いました。

(4) 日常の防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制(対応)

施設内で自衛消防隊を組織し、防災訓練を 3 回行いました。小倉北消防署浅野分署の協力による、「消火訓練」、「AED の取り扱いについての研修」を実施しました。

また、従来の「社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会災害対策要綱」の見直しを行い、災害時等(火災、地震、津波等)の人員動員体制についても災害対策初動配備から災害対策第 3 配備の 4 段階まで状況に応じた動員計画書を作成しました。「職員緊急連絡網」を整備し、職員に配布して体制づくりを行っています。

相模原事件を受け、危機管理委員会にて不審者対応マニュアルを整備しました。職員間で不審者対応についての情報を共有し、利用者の安全を確保する体勢について確認を行いました。

5. 課題分析、自己評価(分析)

(1) 就労支援事業設置目的の達成に向けて

平成 28 年度の就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業における一般企業への就職者数は 7 名です。年度内の離職者は 2 名(28.5%)で、全国的な水準(一般求人に開示就労した、支援機関が関わっている方の 1 年未満の離職率 36%)に比べて若干ではありますが、低水準となっています。('ハローワークにおける精神障害者の職業紹介等に係る実態調査'より)平成 28 年度の重点的な取り組みとして、就労定着に向けた取り組みの強化があります。平成 27 年度の反省として離職率の高さ(全国的な水準と同等)があったため、就労定着支援のためのプロジェクトの立ち上げ、訓練内容の見直し(チームでの作業訓練の導入、朝礼時の挨拶練習等の強化、グループワークの増強、外部と関わる

機会の増加など)、利用者のニーズの細分化に応じた就労継続支援B型事業のコース分けなど様々な取り組みを行いました。就労準備・訓練の比重を重くした結果、年度内の就労者数は減少したものの、年度内の離職者数も減少しており、就労定着に向けた取り組みの効果が始まっているといえます。

現在、就労者数の増加、定着率の更なる向上のため、職場開拓や定着支援に専従する職員を配置することで業務の効率化、実習先の増強、OBの職場とのつながりの強化を検討しています。

(2) 利用者満足度の向上に向けて

毎年度年1回実施しているサービス向上委員会による利用者を対象としたアンケートにおいて、例年につづいて高い利用者満足度を維持しています。(平成26年度88%、平成27年度97.1%、平成28年度86.2%)

この数字は、例年に比べて特に高かった平成27年度に比べて減少してはいますが、例年と比べて遜色ないものであるといえます。平成28年度は訓練内容において様々な変更を行った年であったため、それに対する戸惑いが数字に表れた可能性もありますが、訓練内容に対する満足度(平成26年度76.2%、平成27年度91.4%、平成28年度93.5%)、利用者意見反映度(平成26年度85.7%、平成27年度97.1%、平成28年度93.3%)、職員対応に対する満足度(平成26年度90%、平成27年度97.1%、平成28年度100%)などの結果から、現状や利用者のニーズに沿った変更であったと考えられます。

(3) 利用率の向上に向けて(重点課題)

平成28年度は、在籍者数の増加に向け、広報活動の活発化、問い合わせ者・見学者・体験利用者への対応の強化等を行いました。

①広報活動の活発化

法人内の事業所ジョブサポートセンター八幡の取り組み内容変更に伴い、春季から夏季にかけて法人パンフレットのリニューアルを行いました。また、それに合わせて各関係機関に新規取り組み等の説明を行い、今後の連携の強化に努めました。

結果、広報誌や法人ホームページをきっかけとした見学・問い合わせは増加傾向にあり(平成28年度見学者総数の1/4)、現在更なる訴求力向上に向け、法人ホームページのリニューアルを検討中です。

②問い合わせ者・見学者・体験利用者への対応の強化等

見学者・問い合わせ者の利便性向上のため、問い合わせ～見学、見学～体験利用の期間短縮に努めました。見学の際は、タブレット等の使用により説明の分かりやすさを向上させました。

また、小倉駅周辺に競合事業所が増えたことに伴って複数の事業所の見学・体験利

用を行う当事者が増えているため、見学や体験利用後一定期間連絡のない方を対象に電話連絡を行ってその後の様子を確認し、他の事業所を選択した方に対しては他の事業所を選択した理由を聴取し、今後の運営の参考としました。

6. 相談支援事業所あさの

(一般・特定相談支援事業、精神障害者地域移行支援事業、精神障害等による入院患者の社会復帰事業)

(1) 精神障害者地域移行支援事業

平成 28 年度精神障害者地域移行支援事業では、第 4 期北九州市障害福祉計画の新規事業の一つであるピアサポーターによる相談支援が充実されるよう、積極的に講演活動を行いました。

精神保健福祉に携わる専門職、一般市民、当事者家族等幅広い世代の方々に向けた講演活動を行い、精神障がいに対する知識や関わり方の理解を深めていくことができました。

また、平成 28 年 4 月に施行された障害者差別解消法に関する合理的配慮について、ピアサポーターの視点を活かし講演活動も行いました。

平成 29 年 2 月には、兵庫県神戸市でピアサポーターと共に地域移行支援を行っている相談支援専門員 坂井氏と作業療法士の資格を持ち当事者である笠原氏をお招きし、相談支援事業所と精神科病院、行政との連携による地域移行支援研修会を行いました。

さらに、精神科デイケア利用者とピアサポーターとの交流会を計画し、障害福祉サービス」等の社会資源の紹介や就労系サービスの作業体験を行いました。

(2) 一般・特定相談支援事業

平成 28 年度の地域移行支援は、5 名の方々の利用があり、うち 3 名の方が退院に至りました。地域移行支援事業は、退院後生活環境相談員を始めとする各関係機関との連携を深めていき、障がいの特性に配慮した支援を行ってきました。

地域定着支援は 9 名の方々の利用があり、緊急時の支援体制を整え、安心して地域で暮らせるようサポートしました。

『精神障害者の地域移行支援における医療と福祉の連携』と題した研修会では、支援者からの事例提供とピアサポーターからの体験談の発表を行いました。多職種が関わる支援の大切さや当事者視点で語られる思いを軸にした研修会となりました。

計画相談支援については、障害福祉サービスを適切に利用することにより、地域で自分らしい生活が送れるようサービス等利用計画を作成してきました。

平成 28 年度では、計画相談支援を利用した方は終了者を含め 205 名に上っています。行政からの依頼、医療機関及び障害福祉サービス事業所からの相談や紹介が主な利用経路となっています。

今後、指定相談支援事業所に期待される役割は増々大きくなっていくと考えられ

ます。これからも精神障がいを抱える方々に、安心して地域で暮らせるよう支援を行っていきます。

(3) 精神障害等による入院患者の社会復帰事業

平成 19 年 10 月から始まった本事業は、10 年を経過しました。本事業を推進する社会福祉士等はコーディネート・アドバイザー（以下、CA と略）と称し、当初 1 名配置でしたが、平成 21 年度には 2 名となり、さらに平成 22 年度からは、保護課内の組織改革で各区福祉事務所保護課に医療・介護扶助適正化担当係長が配置され、本格的な組織的活動に発展しました。

平成 22 年度から CA を固定し 1 名は東部エリア（門司・小倉北・小倉南）もう 1 名は西部エリア（戸畑・若松・八幡東・八幡西）を担当してきました。事業目的は、医療機関・地域援助事業者と連携しながら、入院患者の社会復帰・社会生活自立を推進することにあります。事業対象者は、精神科病院に原則として 6 か月以上入院している方で、主治医が退院可能と認め、かつ本人が退院を希望する生活保護受給者です。平成 28 年度は CA2 名が各福祉事務所保護課を巡回し、主として（1）医療機関との調整、（2）受入先（施設やグループホーム等）との調整及び状況の把握、（3）ケースワーカーへの技術的助言等に努めました。担当係長及び担当ケースワーカーに同行し、主治医にお会いし、退院の可能性と退院が可能であればどんな受入先が適切かを協議し、その後患者本人に面談し、退院の意思及び退院後の住まいについて、その意向を聞き取り、社会復帰に向けた課題分析（アセスメント）を行い、本人の希望、家族の要望、客観的情報等を総合的に検討し、社会復帰支援を進めてきました。

CA の役割は、退院が可能と判断された長期入院被保護者の社会復帰支援につきます。本事業は以前から費用対効果が高いと評価されてきました。今後も当該医療機関そして地域社会で長期入院患者等を受け入れている地域援助事業者等とのネットワークを密にして社会復帰支援業務を進めていきます。

7. ひこうき雲（地域活動支援センター）

地域活動支援センターは、毎月「茶話会」を開催し、翌月の行事の内容や利用に関する検討事項等を話し合う機会を設けています。ひこうき雲の運営に、茶話会での利用者の要望、意見を積極的に取り入れてきました。また、話し合った内容は利用者が記録を行い、話し合いに主体的に参加できるようにしました。

1 人暮らしの利用者の生活技術向上に毎月「自炊の会」を実施しました。参加者の要望を取り入れながら、より良く且つ楽しめる献立を決定しています。買い物から準備、調理、片付けまでを協働で行い、利用者で食卓を囲み家庭的な雰囲気作りに努めています。12 月には、クリスマスメニューとして豪華な食事を作って楽しみました。

スポーツ活動として、日々の卓球の練習及び試合を開催しています。平成 28 年度は

月に1度行う卓球大会において参加者達が自主的に、より楽しめるようルールを定め、前にも増して盛り上がる行事となりました。

散歩の会、外食会など従来からの活動も引き続き実施し、季節に応じて花見の開催やかき氷の提供等の行事を開催しました。初詣は初めてリフトバスを利用して宮地嶽神社へ行きました。また、節分時は恵方巻づくりを十数年ぶりに行いました。いずれも参加者からは大変喜ばれたものでした。

話題になっている社会問題、時事や新聞記事や福祉サービスに関する情報を提供できるよう「ニュースの会」を開催しています。利用者の皆様からのいろいろな声を生かすことで楽しみの持てる行事やイベントを実施することができました。

毎年、利用者が楽しみにしているバスハイクでは「大分県別府市」に出かけました。天候にも恵まれ、修学旅行以来等との声も聞かれ、観光に食事、温泉と充実した時間を過ごすことができました。

街の美化活動への参加も毎月引き続き行い、地域の社会資源としての認知度を高めるよう努めました。

平成28年度は7名（男性3名、女性4名）の方の新規利用契約があり、オープンスペースの利用も女性の利用者が来館されることが多くなりました。1日平均利用者数も15名以上となり、今後も利用者1人1人の過ごし方を尊重し、且つ皆で楽しく過ごせるような場を提供していけるよう努めていきます。

8. あさのホーム(共同生活援助事業)

平成21年に開設したあさのホームは8年目を迎えました。平成28年度は、4月、5月に各月1名の新しい利用者を迎え4名でスタートを切りました。

親元から単身で生活を目指す方、医療機関や障害者支援施設から地域移行を目指す方など、グループホームの役割として地域で安定した生活を送るための第一歩となるように考えて必要に応じた支援を行いました。

グループホームのプログラムであるスキルアップ訓練で、買い物や調理活動、部屋の清掃等の単身生活に必要なスキルが身に付くように支援計画を立てていましたが、年度途中で体調を崩し入院に至るケースが述べ4件ありました。当初より目標にしていたきめ細かな支援が思うようにできなかった点があり、今後の課題と考えています。

また、必要に応じて服薬の管理や金銭管理を行いながら個別の支援に努め、定期的に利用者ミーティングを行い、利用者の要望や意見を取り入れて、各人が人前で自分の気持ちや考えを発表する機会を持ちました。利用者の日中活動先である障害福祉サービス事業所や関係機関との連携を取りながら、個別支援計画に基づき個々に応じた支援を行ってきました。

今後も利用者がより充実した生活を送ることが出来るような支援を行っていきたいと考えています。

9. 北九州市精神障害者小規模共同作業所巡回指導事業

「北九州市精神障害者小規模共同作業所巡回指導事業実施要項」に基づき、北九州市より当法人が受託されている事業を平成 28 年度も実施しました。

地区・事業種に違いがあっても共通した課題は「利用者人数の減少について」でした。近年、北九州市内には多くの事業所が設立され、定員数の利用者が通所することが困難になってきました。

1 つの小規模作業所では、グループホーム運営へ転換することを検討されましたが結果、2 名で運営する小規模作業所で継続することになりました。巡回の都度、運営面での相談があり、今後も巡回の必要性を考えます。

就労継続支援 B 型事業所では、利用者が移行・A 型へステップアップするという良い循環がある反面、退所後に定員数が減少するという運営面での困難さがあります。行政窓口や相談支援事業所へ定員情報を提供していくことが重要だと考えます。

また、支援員の支援技術向上のため、研修会の案内を情報提供しました。

10. 社会福祉事業従事者等の研修事業

(1) 研修事業の基本的な取り組みと実績

①リーダー養成「第五期北九州塾」の開催

一年間を通して、毎月 1 回、リーダーに必要なスキルの習得を目的に開催しました。受講生は 16 名、平成 28 年度から野外研修「九州自然道縦走」を取り入れました。

②社会福祉法人等への人材育成個別支援

3 法人「春秋会、いわき福祉会、北九州市身体障害者福祉協会」と顧問契約を結び、「人材育成支援、職場内研修講師、職場活性化支援、メンタル相談、各種委員会へのオブザーバー参加」を行いました。

③講師派遣

福祉団体、行政、民間企業からの講師依頼を受けて、講師を派遣しました。

「福祉団体」

- ・キャリアパス（チームリーダー編）研修「宮崎県社協」
- ・課題解決セミナー「宮崎県社協」
- ・マネジメントスキル向上研修「宮崎県社協」
- ・コミュニケーションスキルアップ研修「宮崎県社協」
- ・職場内研修担当職員研修「山口県ひとづくり財団社会福祉研修部」
- ・リーダースキル向上セミナー「北九州高齢者福祉事業協会」
- ・リーダー研修「福音会」
- ・交流分析勉強会「北九州市福祉事業団」
- ・メンタルヘルス研修「北九州市小倉事業協会」

- ・管理職研修
- ・メンタルヘルス研修
- ・人材育成計画策定への支援

「行政」

- ・OJT 研修「福岡県市町村職員研修所」
- ・新規採用職員研修「佐賀県町村職員研修所」
- ・かどがわ創生館事業への支援「門川町」

「民間企業」

- ・新入社員研修
- ・中堅社員研修
- ・監督者研修
- ・管理者研修
- ・係長、主任クラスのスキル向上セミナー
- ・リーダー研修「QC 活動の展開」
- ・テーマ別研修

(2) 平成 28 年度の特徴と今後の課題

①平成 28 年度の特徴

顧問契約を結ぶ法人への人材育成に力を入れました。講師派遣先法人および施設が増えてきました。引き続き、福祉団体、行政、民間企業への講師派遣を行っています。

またキャリアパス研修の講師実績が、新任職員、中堅職員、チームリーダーまでの 3 階層までに増えました。さらに、地域自治組織の活性化に向けた支援を始め、講師陣の育成にも力を注ぎました。

②今後の課題

現在、専任講師が一名であるため、後継者の確保、育成が急務の課題となっています。また、新規顧客開拓に法人全体で取り組む仕組みづくりが必要と考えます。

さらに、北九州塾については参加法人が固定化し、定員を 15 名としていることで、新たな法人への案内が難しい状況になっています。

11. ジョブサポートセンター黒崎(就労移行支援事業)

(1) 就職に対する取り組み

平成 28 年度は、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター、医療関係機関からの協力もあり、10 名(内 A 型事業所移行 2 名)の就職者を輩出しました。

また、就職・就労定着専門のスタッフを配置し、平成 26 年 4 月から平成 29 年 3 月までの就職者の定着率は 84%になっています。

(2) 訓練プログラムへの取り組み

基礎訓練では、定着支援において離職する方の原因の多くが、仕事のスキル不足ではなく、対人関係や上手くストレス解消ができずに病状が悪化することが原因となっていることから、コミュニケーション、余暇活動を重視したプログラムの頻度を増やしました。今後は施設内において、このようなプログラムをさらに増加する予定です。

職業準備訓練に関しては、体験実習の受入企業も増加しており、実践訓練を行う機会を多く提供しています。働くことやマッチングに関しては、主に職場体験実習を通して知識、経験を積む訓練を行いました。

(3) レクリエーションについて

平成 28 年度は、ボウリングや調理活動、忘年会など、レクリエーションを 18 回開催しました。レクリエーションを通して、休日、余暇の過ごし方や、仲間とのコミュニケーションを通して、自然に集団の中で人との関わりを学ぶような機会を提供しました。

また、平成 27 年度に引き続き、軽スポーツプログラムを行いました。月に 1～2 回程度、公園でバドミントン、キャッチボール、ウォーキング、公共施設にて卓球を行うことで、利用者の方々の体力向上やスポーツを通じたコミュニケーション能力向上に努めました。

(4) その他の取り組み

引き続き、精神科デイケアの利用者を対象とした作業体験会を行いました。就労移行支援事業という社会資源を知ってもらって働き方を学び、支援を受けることで就労できる可能性が高くなるということなど、当事者に向けた就労に関する啓発活動を行なっています。作業体験会をきっかけに就労移行支援事業の利用を経て就職され、現在も就労を継続されている方もいます。

その他、家族向けの講習会の実施や黒崎地区の街美化活動に参加をしており、家族支援や地域貢献も継続して行っています。

また、平成 28 年度も OB・OG 会を 3 回開催し、就職後も定期的に仲間との交流の機会を持つことで、モチベーションの向上を図れるような、職場定着支援も行いました。

12. ジョブサポートセンター八幡

(1) 就労移行支援事業

①事業概要

利用者それぞれの目標に応じた個別のプログラムを実施し、発達障がいの特徴に配慮する空間を意識しながらも、特性に対してどう工夫していけるかを考え、就職に向けて取り組んできました。

平成 28 年度は「リアルな現場」をテーマに、職場体験実習や企業見学の充実を図りました。利用者数は常に 20 名程度確保でき、就職者は前年度を上回る 16 名でした。

②訓練プログラム

発達障がいの方の特性を考慮した個別プログラムとして、日報集計や物品請求、ピッキング等の模擬訓練や職場体験実習を行っています。

職場体験実習は年間延べ 47 件実施し、特性や適職の理解を体験的に深めることが出来ました。また、単身での職場体験実習に不安を訴える利用者が増えてきたことから、利用者 2～3 名と支援員 1 名がユニットを組んでグループ実習を行い、段階的に自信を付けていくことができるようにしました。

③レクリエーション

他者と協同して行う行事や季節を感じることができる行事を実施しています。実施にあたっては、行事の企画や場所の予約、参加者への周知等の役目を担う企画係を募り、訓練の一環として取り組んでいます。

スポーツ活動やウォーキングを毎週行い、キャンプ場でのバーベキューや皿倉山登山、カラオケ等の余暇活動を毎月 1 回程度行いました。

(2) 自立訓練(生活訓練)事業

①事業概要

平成 28 年度より自立訓練(生活訓練)事業も発達障がいの方を対象とした訓練プログラムを行いました。平成 28 年度は「人として安心できる場」をテーマに、人との交流が苦手な方や、自宅にこもりがちな方が安心して過ごすことができるよう配慮しました。

登録数は徐々に増加しており、現在は定員 6 名に対しほぼ同数の利用者数を確保できています。また 3 名が活動を通して自信を付け、就労移行支援事業に移ることができています。

②訓練プログラム

自己理解を深めるグループワークや、社会の流れや地域の話題について話し合うグループワークを主体にプログラムを行いました。コミュニケーションが苦手な方に対しては個別ワークを行う等、利用者の方のペースに応じた活動を心掛けています。

③レクリエーション

ゲームやアニメ等、趣味の話題であれば他者と交流できる方が多いため、会話のきっかけとなるようボードゲームやカードゲーム、動画視聴を定期的に行っています。また、スポーツ活動や調理活動等の余暇活動を毎月 1 回程度行いました。

13. 職員の資質向上等の取り組み

福祉専門職として、適切な支援ができるように資質向上の取り組みを行ってきました。具体的な取り組みとして、専門職研修や良好な職場環境づくり研修等の幅広い研修を行ってきま

した。また、事業所内部の研修だけではなく、県内外で開催された各種研修会に職員を派遣してスキルアップに努めました。

平成 28 年度職員が参加した主な研修

(1)階層別研修

①新任職員研修

該当なし

②中堅職員・管理者研修

小川島異業種交流会(中堅職員・管理監督者)(7 名)

社会福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職研修(2 名)

社会福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修(1 名)

労務管理研修(1 名)

(2)基礎研修(全職員対象)

①職場内研修

人権研修(29 名)

メンタルヘルス研修(29 名)

虐待防止研修(17 名)

相談援助技術研修(29 名)

発達障害者の就労支援研修(31 名)

(3)精神保健福祉センター主催研修

①基礎研修

精神保健福祉基礎研修Ⅰ(3 名)

精神保健福祉基礎研修Ⅱ(3 名)

精神保健福祉実務者研修Ⅱ(5 名)

②課題別研修

発達障害者の理解と就労支援のポイント(15 名)

ひきこもり支援実務者連絡会(3 名)

薬物依存症のある方への社会復帰支援(1 名)

(4)対象事業別(専門)研修

①障害者リハビリテーション関係研修

該当なし

②全国精神障害者社会福祉事業者ネットワーク主催研修

全国精神障害者社会福祉事業者ネットワーク全国大会 in 岐阜(3 名)

③関係機関主催研修

発達障害者支援のための就労セミナー(7名)
発達障害者支援のための実践セミナー(2名)
発達障害者支援のための初級セミナー(1名)
平成28年度発達障害シンポジウム 発達障害児者の二次障害を考える(16名)
触法障害者支援を考える(1名)
北九州若者サポートステーション家族セミナー(1名)
障害者地域生活支援研究会
戸畑区障害者就労支援ネットワーク協議会
北九州就労支援ネットワーク

(5)その他

①先進施設派遣研修

NPO 法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク派遣伝達研修(17名)

②各種課題別研修

(支援員)

NECST ワーキングフェスタ 若者×発達障害者×仕事(2名)

精神障害者の雇用管理を学ぶ(1名)

就労アセスメント研修会(3名)

発達障害者の支援スキルを上げるための自主研修会(7名)

IPS 全国研修会(4名)

平成28年度(北九州市障害者施設協議会)管内施設研修(1名)

心理学研修(2名)

心理相談専門員研修(1名)

高次脳機能障害支援セミナー(4名)

発達障害のある人と医療(10名)

発達障がいのある人が自立するために必要なこと(1名)

業務目標の設定・管理・達成研修(1名)

広報担当者研修(1名)

精神障がい者ピアサポート専門員養成研修(1名)

精神保健福祉士実習指導者講習会(1名)

福岡県サービス管理責任者研修(3名)

福岡県相談支援従事者初任者研修(1名)

(事務員)

事務員勉強会(12回開催)(4名)

雇用トラブル・メンタルヘルス対策リスクマネジメントセミナー(1名)

業務目標の設定・管理・達成研修(1名)

会計担当者研修(1名)

マイナンバー制度合同セミナー(1名)

年末調整セミナー(1名)

③地域移行支援事業に関する講演会

精神障害者地域移行研修(7名)

精神障害者の地域移行支援における医療と福祉の連携(4名)

(地域生活支援関係研修)

障害者ケアマネジメント研修(2名)

全国相談支援ネットワーク研修大会(1名)

2016 フォローアップ研修わたしたちがやるべきこと～これからの精神保健～(1名)

多職種で考える発達障害と療育(3名)

福岡県医療観察地域連絡協議会(2名)

④虐待防止研修

虐待防止啓発研修(4名)

虐待防止・権利擁護研修(1名)

児童虐待問題連続講座(6名)

⑤指定管理者研修

指定管理者研修(1名)

14. 理事会・評議員会

事業協会の運営について審議のため、次のとおり理事会・評議員会を開催しました。

(1) 理事会の開催状況

平成28年度 第1回理事会 平成28年5月23日(月)

審議内容 平成27年度事業報告について

平成27年度決算について

定款の改正について

諸規則の改正について

ジョブサポートセンター八幡施設長人事について

運営規程の改正について

理事の選任について

評議員の委嘱について

新役員による 理事長の選出について及び副理事・常務理事の委嘱について

平成28年度 臨時理事会 平成28年12月5日(月)

審議内容 定款の変更について

評議員選任・解任委員会運営細則の制定について
評議員選任・解任委員候補者について

平成 28 年度 第 2 回理事会 平成 29 年 3 月 15 日(水)

審議内容 平成 29 年度事業計画について
平成 29 年度予算案について
育児・介護休業等に関する規則の制定について
職員就業規則の一部改正について
ジョブサポートセンター八幡施設長の任免について
運営規程の一部改正について
評議員候補の推薦について

(2) 評議員会の開催状況

平成 28 年度 第 1 回評議員会 平成 28 年 5 月 23 日(月)

審議内容 平成 27 年度事業報告について
平成 27 年度決算について
定款の改正について
諸規則の改正について
ジョブサポートセンター八幡施設長人事について
運営規程の改正について
理事の選任について
評議員の委嘱について

平成 28 年度 臨時評議員会 平成 28 年 12 月 5 日(月)

審議内容 定款の変更について
評議員選任・解任委員会運営細則の制定について
評議員選任・解任委員候補者について

平成 28 年度 第 2 回評議員会 平成 29 年 3 月 15 日(水)

審議内容 平成 29 年度事業計画について
平成 29 年度予算案について
育児・介護休業等に関する規則の制定について
職員就業規則の一部改正について
ジョブサポートセンター八幡施設長の任免について
運営規程の一部改正について

平成28年度 北九州市立浅野社会復帰センター(就労支援事業) 運営の概要

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

【主な行事】

月	行事名	月	行事名
4	スポーツ、花見、土曜開館(作業訓練)	10	スポーツ、土曜日開館(作業訓練)、OBOG会、レクリエーション活動(豚汁作り)
5	スポーツ、祝日開館(作業訓練)、土曜日開館(作業訓練) OBOG会、ウォーキング	11	スポーツ、祝日開館(作業訓練・お菓子作り)、家族教室、バスハイク
6	スポーツ、火災避難訓練、バスハイク、OB職場訪問	12	スポーツ、土曜開館(作業訓練)、法人ボウリング大会、大掃除、軽食会、レクリエーション(お菓子作り)
7	スポーツ、家族教室、OBOG会 土曜開館(作業訓練・OBOGとの交流会)	1	スポーツ、初詣、バスハイク、土曜日開館(作業訓練)、家族教室、調理活動
8	スポーツ、暑気払い、土曜開館(作業訓練)	2	家族教室、火災避難訓練、北障協ボウリング大会
9	スポーツ、レクリエーション(カラーリング大会)、家族教室 情報フェスタ、土曜開館・祝日開館(作業訓練)	3	家族教室、地域活動支援センターひこうき雲との合同イベント、祝日開館(OBOGとの交流会)、OBOG会

※毎月、施設周辺地域の街美化活動を行った

【月別年間開所日数】

単位: 日

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
開所日数	22	22	22	23	23	22	23	22	22	22	20	23	266	22.2

【就労移行利用者の月別利用人員】

単位: 人

区 分	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均	利用率
利用延べ数	15	277	287	259	256	326	253	255	209	229	253	252	318	3,174	11.9	79.5%

【就労移行利用者の年齢別区分】

単位: 人

区分	～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～	計
男	1	0	2	1	4	1	1	0	10
女	0	0	3	1	2	0	0	0	6
計	1	0	5	2	6	1	1	0	16

※平均年齢… 40.5 歳

(29.3.1現在)

【就労移行利用者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害(学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	6	1	0	4	3	1	1	0	16

※疾病が重複している利用者あり

【就労継続B型利用者の月別利用人員】

単位:人

区 分	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日 平均	利用 率
利用延べ数	20	332	333	345	307	240	219	193	192	203	224	234	289	3,111	11.7	58.5%

【就労継続B型利用者の年齢別区分】

単位:人

区分	～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～	計
男	1	1	1	4	1	2	1	2	13
女	0	2	1	0	0	0	0	1	4
計	1	3	2	4	1	2	1	3	17

※平均年齢… 40.96 歳

(29.3.1現在)

【就労継続支援B型利用者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害(学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	8	5	0	1	1	1	1	1	18

※疾病が重複している利用者あり

【利用者の退所後の進路】

【就労移行】

区 分	人数
就 職(非開示含む)	7
入 院	0
就労継続支援A型事業所	2
他事業所	0
移行→B型	1
その他	3
計	13

【就労継続支援B型】

区 分	人数
就 職(非開示含む)	0
入 院	1
就労継続支援A型事業所	1
他事業所	2
在宅、デイケアなど	6
B型→移行へ	2
計	12

【就労先】

職 種	人数
スポーツ監視員	1
飲食業	2
病院内清掃	1
印刷業	1
事務	1
障害福祉サービス事業所	1
合計	7

【一般企業及び就労継続支援A型への移行利用者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害(学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	6	2	0	1	1	1	0	0	11

※疾病が重複している利用者あり

【実習生の受け入れ状況】

養成機関	人数	養成機関	人数
日本福祉大学	1	西日本看護専門学校	50
西南女学院大学 福祉学科	1	西南女学院大学看護学科	5
フチガミ医療福祉専門学校	3	九州栄養福祉大学作業療法学科	30
九州産業大学	1		
小倉看護専門学校	8	合計	99

平成28年度 相談支援事業所あさの 運営の概要
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

<活動状況(地域移行支援)>

単位:回

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1月平均
病院訪問	3	6	8	5	5	2	2	2	0	2	2	0	37	3.1
同行支援	4	2	3	3	1	0	0	0	0	1	0	0	14	1.2
個別支援会議	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	0.3
自宅訪問	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
関係者協議	4	1	0	5	0	0	1	2	1	3	2	8	27	2.3
関係機関訪問	4	1	4	1	2	0	1	0	0	1	0	0	14	1.2
状況確認連絡調整	9	5	14	7	3	1	10	0	0	14	11	9	83	6.9

<活動状況(地域定着支援)>

単位:回

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1月平均
病院訪問	0	0	1	1	1	0	0	2	1	3	2	3	14	1.2
同行支援	1	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	6	0.5
個別支援会議	0	0	0	0	2	0	1	0	1	3	1	2	10	0.8
自宅訪問	5	1	9	7	4	3	2	7	7	4	4	1	54	4.5
関係者協議	1	1	2	3	4	1	1	0	0	3	0	2	18	1.5
関係機関訪問	1	1	2	3	3	1	1	1	3	1	1	1	19	1.6
状況確認連絡調整	16	5	12	4	13	16	5	12	9	5	8	9	114	9.5

<活動状況(計画相談支援)>

単位:回

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1月平均
病院訪問	3	5	12	12	11	5	4	6	8	8	6	13	93	7.8
同行支援	12	4	9	6	7	7	11	5	2	6	4	11	84	7.0
個別支援会議	6	1	5	0	5	5	7	4	6	8	5	15	67	5.6
自宅訪問	21	25	36	31	29	22	21	24	36	26	24	34	329	27.4
関係者協議	24	39	75	54	49	29	34	29	28	34	28	43	466	38.8
関係機関訪問	60	42	39	44	43	45	43	54	45	43	35	57	550	45.8
状況確認 連絡調整	180	192	170	198	158	233	167	183	172	167	173	318	2311	192.6

<支援者状況>

単位:人

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	実数
地域移行支援	3	4	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	21	5
地域定着支援	5	5	8	7	7	6	6	6	7	6	6	6	75	9
計画相談支援	153	151	160	156	155	153	151	152	154	151	151	160	1847	205

<退院者状況>

単位：人

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院者数	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3

<地域移行支援後の退院先>

退院先	自宅	グループホーム	宿泊型自立訓練	計
人数	0	2	1	3

<年齢別区分>

平成29年3月1日現在

地域移行支援

(人)

区分	～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳～	計
男性	0	0	1	0	0	1	0	0	2
女性	0	0	0	0	2	1	0	0	3
計	0	0	1	0	2	2	0	0	5

地域定着支援

区分	～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳～	計
男性	0	0	1		1	1	2	0	5
女性	1	0	0	1	1	0	1	0	4
計	1	0	1	1	2	1	3	0	9

計画相談支援

区分	～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳～	計
男性	24	6	16	12	13	9	5	12	97
女性	13	12	7	8	10	6	5	1	62
計	37	18	23	20	23	15	10	13	159

<疾病別区分>

(人)

統合失調症	双極性障害 (躁病・うつ病)	脳梗塞による 精神障害	精神遅滞	発達障害	てんかん
73	85	0	27	41	5
身体障害	難病	その他	※重複あり		
8	1	30			

平成28年度 地域活動支援センターひこうき雲 運営の概要

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

【主な行事】

()は参加人数

月	行事名	月	行事名
4	花見(7) 卓球大会(9) 映写会(3)	10	卓球大会(10) 映写会(4)
5	卓球大会(11) 映写会(5)	11	卓球大会(12) 映写会(4) 【屋外行事】バスハイク(14)
6	卓球大会(14) 映写会(4)	12	法人合同ボウリング大会(7) 映写会(3) 卓球大会(9) 大掃除(8)
7	卓球大会(13) 映写会(4)	1	初詣(8) ぜんざい会(7) 卓球大会(13)
8	卓球大会(11) 映写会(4)	2	節分【恵方巻】(9) 卓球大会(10)
9	卓球大会(10) 映写会(3)	3	浅野社会復帰センター(就労支援事業・ひこうき雲) 合同イベント(7) 卓球大会(12) 映写会(3)

* 定例行事：自炊の会、茶話会、散歩の会、街美化活動、外食会、卓球大会、ニュースの勉強会

【開所日数】

単位：日

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均 日数
開所日数	20	19	22	20	21	20	20	19	19	19	20	22	241	20.1

【当事者利用状況(来館者数)】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	345	307	333	267	297	276	313	292	257	315	302	331	3635	302.9

【電話相談利用状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	24	26	18	13	13	23	20	7	8	12	14	15	193	16.1

【自炊の会 利用状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	7	4	5	4	4	5	5	5	3	6	7	3	58	4.8

※毎月1回 開催

【利用者茶話会参加状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	16	13	16	13	7	14	12	16	10	12	14	12	155	12.9

※毎月1回開催

【散歩の会参加状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	5	9	15		4	3	8			8	7	6	65	7.2

※月1回開催 7月は参加者なし 11月はパスハイクを実施 12月は年末の為実施せず。

【街美化活動参加状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	5		5		3	4	4	6		3		4	34	4.3

※ 5月、7月、12月、2月は、雨のため中止

【外食会参加状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	11	8	10	7	11	10	7	10		7	7	7	95	8.6

※月1回開催 12月は活動過多の為、中止。

【卓球大会参加状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	9	11	14	13	11	10	10	12	9	13	10	12	134	11.2

※月1回開催

【ニュースの会参加状況】

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1ヶ月 平均
利用人数	8	8	12	6	5	5	6	8	5	5	5	5	78	6.5

※月1回開催

【利用者登録・契約者数】 ※H28.4.1登録者数：140名

単位：人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	最終 登録数	新規 登録	登録 解消
登録・契約者数	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	147	7	0

【登録者の年齢別区分】

単位：人

区分	～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～	計
男	0	0	3	6	8	16	19	41	93
女	0	3	5	5	6	4	8	23	54
計	0	3	8	11	14	20	27	64	147

(H29.3.31現在)

※平均年齢… 48.6 歳 (7151÷147人) 【H29.3.31現在】

【地域活動支援センター ひこうき雲 月間利用者数】

※当事者来館者総数(OS・見学・その他)

単位：人

月間利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
男	251	236	264	194	229	208	237	205	201	248	242	242	2,757	229.8
女	94	71	69	73	68	68	76	87	56	67	60	89	878	73.2
計	345	307	333	267	297	276	313	292	257	315	302	331	3,635	302.9

【その他の来館者・家族・近親者来館者数】※その他の来館者、家族・近親者来館者の合計数

単位：人

月間来所者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
来所人数	1	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	6	0.5

【各月の一日平均利用者数】 ※ 一日平均利用者数 = 当事者総数÷開館日数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
一日平均利用者数	17.3	16.2	15.1	13.4	14.1	13.8	15.7	15.4	13.5	16.6	15.1	15.0	181.2	15.1

平成28年度 あさのホーム(共同生活援助事業) 運営の概要

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

【利用の状況】

単位:人

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居者	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退去者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在籍人員	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	47

【主な行事】

月	行事名	月	行事名
4	あさのホーム夕食会、利用者ミーティング	10	あさのホーム夕食会、スキルアップ訓練、レクリエーション、利用者ミーティング
5	あさのホーム夕食会、スキルアップ訓練、利用者ミーティング	11	あさのホーム夕食会、スキルアップ訓練、利用者ミーティング
6	あさのホーム夕食会、利用者ミーティング	12	あさのホーム夕食会、利用者ミーティング
7	あさのホーム夕食会、スキルアップ訓練、利用者ミーティング	1	あさのホーム夕食会、利用者ミーティング
8	あさのホーム夕食会、スキルアップ訓練、利用者ミーティング	2	あさのホーム夕食会、利用者ミーティング
9	あさのホーム夕食会、利用者ミーティング	3	あさのホーム夕食会、利用者ミーティング

【利用者の入退居の内訳】

単位:人

区 分	人 数	
	入居	退居
精神科病院	0	0
在宅(家族と同居)	2	0
在宅(単身)	0	0
計	2	0

【世話人の支援内容】

- ①朝夕食の食事提供
- ②生活に関する助言・支援
- ③関係機関との連絡調整

【バックアップ施設の支援内容】

- ①日中活動の支援
- ②金銭管理に関する支援
- ③包括的な相談支援・生活支援
- ④関係機関との連絡調整

平成28年度 精神障害者小規模共同作業所巡回指導事業 運営の概要

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

【作業所巡回状況】

単位 : 回

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均 日数
回 数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15

【地区別巡回事業所先】

	地 区	事業所名
1	門司区	多機能型事業所 スマイル
2		ウェンディ本部
3	小倉北区	ピアハウス・リバーサイド
4		地域活動支援センター北九州マック
5		北九州ダルク・デイケアセンター
6		地域活動支援センターひまわり
7	小倉南区	特定非営利活動法人 石田作業所
8		障害者小規模共同作業所 ハレル家
9		じねん舎クラブ(平成28年2月より小倉北区から南区へ移転)
10	若松区	就労継続支援B型事業所 北九クローバー若松
11		就労継続支援B型事業所 北九クローバーさわやか
12	八幡西区	地域活動支援センター八幡西
13		エンパワー北九州
14		喫茶マインズ
15		マイマイ工房黒崎

※巡回業務内容

- ①作業所指導員への助言
- ②作業所の課題や現状の把握
- ③作業所への情報提供
- ④指導員・利用者・家族対象の研修企画及び実施
- ⑤精神保健福祉センターとの連絡調整
- ⑥その他関係機関との連絡調整及び強化
- ⑦作業所利用者からの相談
- ⑧作業所のイベントの支援

平成28年度 ジョブサポートセンター黒崎(就労移行支援事業) 運営の概要

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

【主な行事】

月	行事名	月	行事名
4	軽スポーツ 花見	10	軽スポーツ (ウォーキング) 土曜開館 (食事会・門司港・下関散策)
5	土曜開館 (調理活動・コロナワールド) 軽スポーツ (ウォーキング)	11	軽スポーツ (ウォーキング) OB体験談 土曜開館 (英彦山散策・調理活動)
6	スポーツ活動 土曜開館 (カラオケ)	12	ボウリング大会 土曜開館 (忘年会) 外部講師 (コミュニケーション)
7	土曜開館 (暑気払い) OB体験談 外部講師 (コミュニケーション)	1	初詣 土曜開館 (新年会、ボウリング)
8	土曜開館 (しものせき海響館)	2	北障協ボウリング大会 健康診断 家族教室 土曜開館 (小倉散策)
9	軽スポーツ (ウォーキング) 家族教室 外部講師 (企業) 土曜開館 (いのちのたび博物館・カラオケ)	3	スポーツ活動 (ウォークラリー)

※毎月、施設周辺地域の街美化活動を行った

【月別年間開所日数】

単位: 日

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
開所日数	20	21	22	21	22	23	22	22	20	22	21	22	258	21.5

【就労移行利用者の月別利用人員】

単位: 人: %

区 分	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日 平均	利用 率
利用延べ数	20	246	251	300	238	215	229	243	249	239	294	276	270	3,050	11.8	59.1%

【就労移行利用者の年齢別区分】

単位: 人

区分	～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～	計
男	2	2	3	1	1	0	0	9
女	0	3	1	0	1	0	0	5
計	2	5	4	1	2	0	0	14

※平均年齢… 35.7 歳

(29.3.1現在)

【利用者の退所後の進路】

【就労移行】

区 分	人数	就労先	人数
就 職 (非開示含む)	8	製造業	7
入 院	0	不動産業	1
就労継続支援A型事業所	2		
他事業所	1		
移行→B型	1		
その他	0		
計	12	計	8

【実習生の受け入れ状況】

養成機関	人数
西南女学院大学	3
合計	3

【就労移行利用者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害 (学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	6	3	0	4	6	1	2	0	22

※疾病が重複している利用者あり

【就労移行就職者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害 (学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	3	2	0	2	2	0	0	0	9

※疾病が重複している利用者あり

平成28年度 ジョブサポートセンター八幡(就労移行支援・自立訓練事業) 運営の概要

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

【主な行事】

月	行事名	月	行事名
4	花見、土曜開館(ソフトバレー大会応援)、祝日開館(訓練)、スポーツ活動、ウォーキング、パソコン講座、農業体験	10	土曜開館(コスモスまつり)、祝日開館(訓練)、就労教室、スポーツ活動、ウォーキング、農業体験
5	土曜開館(皿倉山登山)、祝日開館(訓練)、スポーツ活動、ウォーキング、パソコン講座、農業体験	11	土曜開館(起業祭、バーベキュー)、祝日開館(訓練)、スポーツ活動、ウォーキング、農業体験
6	スーツスタイル講座、スポーツ活動、ウォーキング、パソコン講座、家族教室、農業体験	12	土曜開館(就労教室、調理活動)、祝日開館(訓練)、忘年会、大掃除、スポーツ活動、ウォーキング、農業体験
7	土曜開館(就労教室)、祝日開館(訓練)、スポーツ活動、ウォーキング、農業体験	1	土曜開館(就労教室、カラオケ)、祝日開館(訓練)、スポーツ活動、ウォーキング、農業体験
8	土曜開館(暑気払い)、祝日開館(訓練)、スポーツ活動、ウォーキング、農業体験、防災研修会	2	スポーツ活動、ウォーキング、農業体験、家族教室
9	祝日開館(訓練)、スポーツ活動、ウォーキング、農業体験	3	土曜開館(OB会)、スポーツ活動、マンション清掃、ウォーキング、農業体験、企業見学・バスハイク

【就労移行月別年間開所日数】

単位: 日

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
開所日数	21	22	22	22	23	22	23	22	22	23	22	23	267	22.3

【就労移行利用者の月別利用人員】

単位人: %

区 分	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均	利用率
利用延べ数	18	373	381	421	416	452	480	452	437	459	414	421	517	5,223	19.6	108.7%

【就労移行利用者の年齢別区分】

単位: 人

区分	～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～	計
男	15	1	3	2	0	1	1	23
女	4	1	0	1	0	0	0	6
計	19	2	3	3	0	1	1	29

※平均年齢… 30.03 歳

(29.3.1現在)

【就労移行利用者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害(学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	0	5	0	3	24	0	0	0	32

※疾病が重複している利用者あり

【自立訓練月別年間開所日数】

単位：日

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
開所日数		22	22	22	23	22	23	22	22	23	22	23	246	22.4

【自立訓練利用者の月別利用人員】

単位人：％

区 分	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均	利用率
利用延べ数	8		22	42	56	61	82	128	137	132	131	119	115	1,025	4.2	52.1%

(29.3.1現在)

【自立訓練利用者の年齢別区分】

単位：人

区分	～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～	計
男	7	1	0	0	1	0	0	0	9
女	2	0	0	0	0	0	0	0	2
計	9	1	0	0	1	0	0	0	11

※平均年齢… 24.9 歳

(29.3.1現在)

【自立訓練利用者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害(学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	0	1	0	2	9	0	0	1	13

※疾病が重複している利用者あり

【利用者の退所後の進路】

【就労移行】

区 分	人数
就 職(非開示含む)	16
入 院	0
就労継続支援A型事業所	1
他事業所	3
その他	3
計	23

就職者内訳	人数
事務・事務補助	9
小売店内作業	3
工場内作業	1
清掃	1
介護施設	1
調理補助	1
計	16

【自立訓練】

区分	人数
就労移行支援事業	3
入院	0
就労継続支援A型事業所	0
他事業所	0
その他	1
計	4

【一般企業及び就労継続支援A型への移行利用者疾病分類】

区分	統合失調症	双極性感情障害 (躁病・うつ病含)	脳損傷による 精神障害	精神遅滞	発達障害(学習障害・ 広汎性発達障害等)	てんかん	その他	不明	計
人数	1	7	0	0	14	0	1	0	23

※疾病が重複している利用者あり

【実習生の受け入れ状況】

養成機関	人数
西南女学院大学	1
合計	1